

2020年度「フィールド実習」一覧

2020年3月9日
文学学術院

名称 中国語による入門演習——中国でコミュニケーションを実践する

指導教員 千野 拓政

受入機関

費用

上海大

中止

実習場所
中国上

活動期間

2020年9月
2021年3月
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計16日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下に、上海大学の学生とともに上海大学の教授の講義を受ける。
- ②午後1コマ、課題に即して日中双方の学生が報告・討論する。
- ③討論終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、専門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧县城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥入門演習班の学生(1年生が主体)は、専門班と合同で調査活動を行うことで、メンバーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期隔週開講の実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による授業の受講を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による授業、中国の学生相手のコミュニケーション、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に授業の教材などは予習しておくことが求められる。)

募集時期 : 9月16日～9月28日(秋期科目登録開始日から面接当日まで)

選考方法 : 文学学術院で1年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
9月28日(月)6限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 : 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜6限に千野研究室で行う。
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2020年度「フィールド実習」一覧

2020年3月9日
文学学術院

名称 中国語による専門演習——中国で専門ゼミを実践する

指導教員 千野 拓政

受入機関

費用

上海大学中文系・文化研究系

約16万円

実習場所
中国上

中止

活動期間

2020年9月
2021年3月
(受け入れ)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下に、上海大学の学生とともに上海大学の教授の講義を受ける。
- ②午後1コマ、課題に即して日中双方の学生が報告・討論する。
- ③討論終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、入門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧旧城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥専門演習班の学生(2年生が主体)は、入門班と合同で調査活動を行うことで、リーダーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期隔週開講の実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による授業の受講を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による授業、中国の学生相手のコミュニケーション、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に授業の教材などは予習しておくことが求められる。)

募集時期 : 9月16日～9月28日(秋期科目登録開始日から面接当日まで)

選考方法 : 文学学術院で2年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
9月28日(月)6限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 : 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜6限に千野研究室で行う。
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2020年度「フィールド実習」一覧

2020年3月9日
文学学術院

名称 **カンボジア、アンコール遺跡で学ぶ観光開発と地域社会**

指導教員 **田畑幸嗣・高野孝子**

受入機関

日本国
政
チーム

中 止

宿
等)

実習場所
カンボジ

活動期間

・事前学習 5月12日(火)、6月2日(火)、6月30日(火)の6限以降(日時変更の可能性あり)
・フィールド実習 9月14日～2020年9月19日(実習)(6日間/計40時間)
・事後学習 10月20日(火)6限以降(1日/3時間)なお、事後学習日までに比較対象用の国内観光地を見学しておくこと。国内見学の費用は参加費用に含まれない
(総計11日間/計68時間以上)

主な活動内容

本実習は、カンボジア、アンコール遺跡というフィールドにおいて、社会構築論系が目指す「過去に学び、現在を知り、未来を拓く」ことを実践する。参加者には、ある集団の「過去」が、グローバル社会を対象とした観光資源へと転化することで生じる種々の問題を見つけたし、それを解決するための力を養い、その力をもとにして実際の社会で実践的に活動できるようにしてもらいたい。
そのため具体的には、実際の観光地(遺跡)訪問だけでなく、遺跡保存のための国際組織担当者(遺跡保全事業、人材養成、遺跡観光と安全確保への取り組み)や現地機関観光局担当者(遺跡保護と観光開発・環境保全への取り組み)などからそれぞれの立場ごとの話を聞く。さらに、遺跡近隣の農村や土産物店街なども見学し、可能であればインタビューも実施する。フィールド実習中は毎日、オーバーツーリズム、開発、環境保全、地域社会と遺跡・観光との共存など多様なテーマで討議を行い、考えを深め、整理して行く。

評価方法 : 事前学習時には、小テーマごとにリサーチし、グループプレゼンを行う。実習参加後には、日本国内の観光地を一つ選び実際に見学した上で、カンボジアにおけるツーリズムと比較し、観光開発と地域社会に関する自分なりの見解をまとめる。事後学習のあと、報告書をまとめる。別途、公開の報告会を予定している。

募集時期 : 2020年3月22日-4月21日(別途、追加募集を行うこともある)

選考方法 : 本実習に応募した動機を明示した志望理由書(600字以上)をもとに選考する。動機には、なぜ本実習に参加しようと思うのかなどを論述すること。学籍番号・所属コース/論系、氏名を明記の上、書式自由。基本的な語学力(英語)を身につけていることを前提とする。

提出方法: 教員2名に宛てたメール添付で提出(takano@aoni.waseda.jp tabata-y@waseda.jp)。メールのタイトルを、「カンボジアフィールド実習応募」とすること。その後、面談をすることがある。面談日時は応募者と相談し、4月中に実施、決定する。

備考 : ・2年生以上。満20歳以上を原則とする。
・渡航便や航空券の価格等の事情により、日程の調整はありうるが、実習時間の短縮はない。
・他の教員がさらに加わることもある。

以 上